

「図書館を使った調べる学習コンクール」にチャレンジしよう！

調べる学習の進め方とまとめ方のポイント

荒川区教育センター 学校図書館支援室

☆調べる学習チャレンジ講座に応募したみなさん、調べる学習に取り組んで、夏の素敵な思い出をつくってください。調べる学習の進め方やそのまとめ方についてのヒントをお伝えします。自分の力で進めていくときに使ってください。みなさんの学習を応援しています！

- ♡ たのしくすすめよう！
- ♡ あきらめずにすすめよう！
- ♡ まわりの人たちにそうだしながらすすめよう！

調べる学習はこんなふうに進めよう

☆調べる学習をスタートするのに用意しておく便利なもの

- ・クリヤーファイル、ポケットファイル、ノート、大きめのふうとうなど
どんどん進んでいく学習の記録やメモ、調べた情報カード、写真や資料がばらばらにならないように、しっかりまとめてとっておける（保管）ものがあると、いいですよ。
 - ・メモカード（百均ショップなどにもあります）
調べた情報を書いておくものです。ノートでもいいですが、カードのほうが選んだり並べたりできて便利です
 - ・A4ポケットファイル または 八つ切りサイズのスケッチブック
調べたことを作品にまとめて出品する時に便利です。
ポケットファイルは中身を入れかえられるので、後から内容を変えたい、増やしたい、順番を変えたいと思った時でも、やり直しがしやすいです。
スケッチブックはしっかりした紙でできているので、はり付けたい資料がたくさんある時には、台紙の役割をして便利です。
- ※作品のきまりで、50ページまでとなっていますので、ポケットの数や、ページ数を考えて用意するといいですね。

何を用意するかは、まわりの大人の人に相談しましょう。

☆ ^{しら} ^{がくしゅう} ^{すす} ^{かた} 調べる学習の進め方

No	ステップ	^{じぶん} ^{すす} 自分で進めること	アドバイス
1	テーマをきめる	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の好きなことやふしぎだな、なぜかなと思うことを思い出してたくさん言葉で書き出してみよう • もし、書いた言葉の中でかんけいがありそうなものがあったら、線でつないでみよう • いちばん調べてみたいことがらや、テーマ、疑問をえらんで赤えんぴつなどで はっきりしるしをつけよう <p> ^{しら} ^{じつもん} ^{ことば} ^{つか} 調べたいことを質問の言葉を使って文にしてみましよう。 ^{じつもん} ^{ことば} 質問の言葉 </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> いつ？ だれが？ どこで？ どのぐらい？ (いくつ?) どんなふうに？ なぜ？ ~ってなに？ ~ってほんとうかな？ ~のためにひつような~は？ </div> <p> などの言葉をつけて、調べることを文に書き、はっきりさせておきましよう。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> • 白い紙やノートを使って時間をかけて、しっかり考えましよう。 • <u>実は、調べる学習の中で最も大切なことです。</u> <p> たいしてきょうみがないことや、そんなにすきでないことを選んでしまうと、うまくいきません。 <u>本当に調べたいことはなにかよく考えて決めましよう。</u> </p>
2	えらんだ理由を書く	<ul style="list-style-type: none"> • 調べようと思ったきっかけを文で書こう 	<ul style="list-style-type: none"> • すき、きれいなわけ • であったときのこと、そのときの気持ちや思ったこと • ふしぎだなと思ったわけ • びっくりした、感動したときのこと • なぜ調べたいと思ったのかを、くわしくていねいに書きましよう • 気持ちだけではなく、今まで体験したことなども入れて書くと読む人によく伝わります。

			最後のふりかえりをする ときにもやくだちます。
3	自分の意見や予想を 書く	<ul style="list-style-type: none"> • なにを調べるのかをはっきり文で書いてみよう（調べたいことはまずは3つぐらいにしぼろう） • 調べることについて、自分が考えたり予想したりすることを書いておこう • どんな調べ方があるか、できそうかまわりの大人にも相談しておこう（研究計画の準備） 	<ul style="list-style-type: none"> • 調べることについての、予想や考え、考えた理由も、書いておきましょう。 • どうしてそう考えたかの理由を書くことが大切です。「なんとなく」ではなく、今までに自分が見たことや感じたこと、知っていることをもとにして書きましょう。
4	調べ方を決める （研究計画を立てる）	<ul style="list-style-type: none"> • 調べることがらによって、どんな調べ方が合っているか考えて計画を立てよう 1 実物を観察する 2 実験して確かめる 3 実物を見学する （博物館・美術館・資料館・動物園・水族館・工場など） ※事前に問い合わせると、質問に答えてくれる場合も 4 本などの資料で調べる 新聞・雑誌・パンフレット・ポスターなど 5 インターネットを使う <ul style="list-style-type: none"> • キーワードで調べる • メールなどで質問する 6 人に聞く（インタビュー） <ul style="list-style-type: none"> • 会って聞く ※録音させてもらおうとよい • 手紙を出して聞く ※返信用封筒と切手をお忘れなく • ZOOM などを使う 	<ul style="list-style-type: none"> • コンクールに応募する場合は、必ず本を利用してください。 • 実物を見たり、体験したりするのは、最もはく力がありますが、できないときは、DVDやインターネットを使うことをおすすめします。 • パンフレットやポスターなどでもらえる資料があったら、関係する人にことわってもらいましょう。 • 本のページの複写をするときは、必要などころだけにしましょう。 • 協力してくれる人がいるときは、相手の人に前もって連絡をきちんと取り、マナーを守って取材しましょう。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ番組などで質問して、 専門家の人に聞く <p>7 アンケートをとる</p> <ul style="list-style-type: none"> ※どんな質問をするのか ※どんな人に協力してもらおうのか <p>8 体験する・自分で作ってみる</p> <p>9 写真・ビデオにとる、録音する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人や物を録音、撮影するときは、必ず相手の人に許可をもらいましょう
5	<p>調べる</p> <p>調べるために使う本は</p> <p>低学年は3さつ</p> <p>中学年以上は</p> <p>5さつは用意しよう</p> <p>いろいろな方法で調べよう</p>	<p>1 研究計画メモを持って図書館に行く (もちろん学校図書館でもOK)</p> <p>2 必要な本を自分で探してみる</p> <p>3 司書さん(司書の先生)に相談する</p> <p>4 困ったときはまずは 百科事典を調べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を見つけたら、大事なことを選んで情報カードに書きぬく ・図鑑や学習年鑑も調べたいこと がらによっては調べる <p>5 もっとくわしくのっている本も探して調べる</p> <p>6 自分の予想したこととの違いや同じだったことも書く</p> <p>7 1つの調べたいこと(質問)については、2さつ以上の本で調べよう</p> <p>8 調べるだけでなく、本から分かったこと、気づいたこと、もっと知りたくなったこと、疑問なども書いておく(考察といいます)</p> <p>9 使った本や新聞の情報を記録する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">出典といいます</div> <ul style="list-style-type: none"> ・本の情報カードに書くこと <p>① 調べた本の名前</p> <p>② 書いた人</p> <p>著者・作者・文・作編集者、監修など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇の本はありますか」ではなく、「〇〇の△△についての本をさがしています」などなるべく知りたいことをはっきり伝えて相談すると、協力してもらいやすいです。 ・百科事典はあいうえお順にのっています。 ・図鑑で調べるときは、目次と索引 ・よりくわしく知ることができる ・それぞれの本に書いてあることがちがっていたら、そこから新しい「？」が生まれる。 <p>◎使った本の情報は忘れずに記録しましょう。大切なポイントですよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えたことの基になる情報です。最後には資料リストにのせます。

	<p>③ 出版社<small>しゅつぱんしゃ</small></p> <p>④ 出版年<small>しゅつぱんねん</small> <small>おくづけ</small> ※奥付<small>いちはんうし</small>とって、本の一番後ろにあるページにのっている</p> <p>⑤ のっていたページ</p> <p>⑥ 図書館で借りた本は請求記号<small>としょかん か せいきゅうきごう</small> <small>せびょうし</small> (本の背表紙にはってあるラベル<small>きごう</small>に書いてある記号)</p> <p>※本をよんだり、かりたりした<small>としょかん</small> 図書館の名前も書いておきましょう</p> <p>• 新聞の情報カード<small>しんぶん じょうほう</small>に書くこと</p> <p>①新聞の名前</p> <p>②のっていた年月日・朝刊<small>ちょうかん</small>、夕刊<small>ゆうかん</small></p> <p>③ページ (面)</p> <p>④どこの地方版<small>ばん</small>なのか</p> <p>⑤版<small>ばん</small> → 新聞の1番上のところに ○版<small>ばん</small>と小さく出ています</p> <p>10 インターネット<small>つか しら</small>を使って調べるときは、信頼<small>しんらい</small>できるサイトを見る。 (例) <small>あらかわくりつとしょかん</small> • 荒川区立図書館子どもひろばリンク集<small>しゅう</small> <small>とりつとしょかん</small> • 都立図書館こどもページ <small>こくさい としょかん</small> • 国際子ども図書館キッズページ などから、検索<small>けんさく</small>してみよう</p> <p>• 情報<small>じょうほう りょう</small>を利用するときには記録<small>きろく</small>する</p> <p>①発信元<small>はっしんもと さくせいしゃ</small> (作成者)</p> <p>②Webページ名<small>うえび</small></p> <p>③Web サイト名</p> <p>④URL<small>ゆーあーるえる</small></p> <p>⑤更新年月日<small>こうしんねんがっぴ</small></p> <p>⑥調べた月日<small>しら</small></p>	<p>• ページ<small>きろく</small>を記録しておくともう一度調べたいときに、<small>さが</small>すぐ探せます。</p> <p>※同じ日の同じ地方のものでも紙面が<small>ちが</small>違うものがあります。</p> <p>• インターネットのサイトには、国の機関<small>くに きかん こうてき と</small>や公的(都、<small>けん し きかん</small> 県、市など)機関が子ども向け<small>む ひら</small>に開いているものがあります。</p>
--	--	---

れい
(例) ツバメってどんな鳥

こうえきざいだんほうじん にほんやちよう
①公益財団法人 日本野鳥の会

②ツバメってどんな鳥?

③消えゆくツバメをまもろう

④<https://www.wbsj.org/activity/conservation/research-study/tsubame/whatis/>

⑤2021年3月29日

⑥2022年6月16日

ほんもの
11本物を見る

はくぶつかん びじゆつかん どうぶつえん すいぞくかん
博物館・美術館・動物園・水族館・

たてんらんかい しりょうかん ほんもの
その他展覧会や資料館などで本物を見る

じっさい たいけん
12実際にやってみる、体験する
作ってみる

じっけん かんさつ
13実験・観察する

じっけん いじょう
・実験では、2つ以上のことからを
しらべるときは、条件のそろえ方、
かえ方に注意する。

かんさつ かなら しら ひづけ
・観察は必ず調べた日付を書く。

- ほんもの じっさい
・本物を見ること、実際に
たいけん
体験することは、なにより
たいせつ しら かた
も大切な調べ方です。そこ
から、新しい疑問や力の
ぎもん ちから
ある感想が生まれます。
かんそう
・写真など記録を取ってい
しゃしん きろく と
いか、係の人に許可をと
かりましょう
・どうしてもほんものが見られ
ないときはそれぞれの
こうきょうしせつ
公共施設のもつデジタル
アーカイブスを利用する
りよう
こともできます。

- たいけん じゅんび よやく じかん
・体験には準備や予約、時間
がかかることもあります。
あんぜん
できるかどうか、安全かな
ど、大人に相談して取り組
みましよう。
と く ようす
・取り組んでいる様子を
しゃしん とうが ろくおん
写真や動画、録音などで
きろく あと かんさつ
記録しておく、後で観察
したりまとめやふりかえ
りをしたりするとき役に
やく
立ちます。

- かんさつ ばあい
・観察をつづける場合は、
まいにちおな
毎日同じ時こくに調べま
しょう。

		<p>14 調べる活動が終わったら、集めたカードや写真、データを全部並べて、整理したり、順番に並べたりして、そこから分かったこと、考えたことを文に書いておく。</p>	<p>・気づいたことをくわしくていねいにスケッチするなど、写真にとるだけでなく気づいたことの記録を書いておきましょう。</p> <p>※調べて分かったこと実験・観察したことから、また疑問やもっとくわしく知りたくなったことが見つかったら、あきらめないで、調べてみましょう。きっと、もっとおもしろい、びっくりする発見があなたをまっていますよ。レッツ・チャレンジ!</p>
6	<p>わかりやすくまとめる</p>	<p>・調べたことを説明する文を考えて書く</p> <p>・使う写真やスケッチを選んだり、はる順番に並べたりする</p> <p>※本、インターネット、パンフレット、新聞などからの情報を使う時には必ず情報のそばに、出典を書きましょう。</p> <p>・データをもとに表やグラフをかくまたは使いたい表やグラフを準備する</p> <p>・自分が調べて分かったことや考えたことが伝わるものになったかどうか確認する。</p>	<p>・どこにどんな文が必要か考えよう。</p> <p>・自分の発見や、調べたことがよく伝わるように、選んだり並べたり工夫しましょう。</p> <p>・表には表題とそれぞれの単位を忘れずに</p> <p>・グラフは伝えたいことが伝わるように、縦軸の目もりの大きさや単位を工夫しましょう。</p> <p>・まわりの人にも見てもらってわかりやすくなっているかチェックしてもらいましょう。</p> <p>(いったん、ポケットファイルなどに入れてみると、よくわかりますよ)</p>

No	ステップ	自分で進めること じぶんすす 自分で進めること	アドバイス
7	本のように作ってしあげる(製本)	<p>• 大きな台紙(画用紙など、コンクール出品の場合はB4 または八つ切りサイズまで)に順番に貼ったり、書いたりして、調べたことを見やすくまとめる</p> <p>• A4のポケットファイルを利用して書いたレポートをポケットに入れていくのもよい方法です。</p> <p>じゅんばん 順番は</p> <p>1 タイトル(表紙)</p> <p>2 目次</p> <p>◎ 3より後ろの内容には忘れずにページ番号を書こう(50ページまで)</p> <p>3 テーマ・疑問について</p> <p>4 調べようと思ったきっかけやわけ</p> <p>5 はじめ思っていた自分の予想(仮説)</p> <p>6 調べた方法について</p> <p>7 調べたこと、分かったこと</p> <p>8 調べたことについて考えたことや学んだことを自分の言葉で書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> • 予想は当たっていましたか？ その理由は？ • 始めに調べたかったことは、分かりましたか？ • 調べていく中で新しく分かったこと、浮かんできた疑問は？ <p>9 活動をふりかえって考えたこと、思ったこと(感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 調べる前と後で、考えが変わったことも書くとよい 	<p>• タイトルは顔。調べて強く思ったことを入れて、他の人が「見たい！読みたい！」と思うような言葉でつけよう。</p> <p>※「～について」は✖</p> <p>• イラストや写真などもくわえて、すてきに仕上げましょう。</p> <p>• いろいろな資料を読み比べて分かったことや考えたことは？</p> <p>• 予想や調べようと思ったきっかけや理由と、思ったことや考えたことがつながっていますか？</p> <p>▲ 残念な例 すごくがんばった すごく大変だった →どんなことを？</p>

	<p>できあがり！ さいごまでよくがんばりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • つづきがあればやってみたいこと、調べてみたいことはなんですか？ • 調べている中で心に残ったエピソードはありますか？ <p>10参考資料リストを書く・作る (図書館振興財団の調べる学習コンクールホームページにもリストの基がのっています)</p>	<p>それで分かったことは？ 楽しかった おもしろかった →特に心に残っているエピソードは？ やってよかった →なぜ？どんなことをやったのが心にのこっている？ やったことで変わったことは？ 行動・ものの見方など</p> <p>情報カードの出番ですね メモしておいた使った本、新聞、雑誌、パンフレット、サイトなどの記録 協力してもらった(インタビューや何かを教えてもらった)人なども書きましょう。</p>
--	-----------------------------------	---	---

だいたいこんなふうにできあがればOKです！

1	ひょうし 表紙・タイトル	どんなことについて調べたかがよく分かり、自分がいちばん伝えたいことをタイトルにしてみましょう。
2	もくじ	どのページに何が書いてあるのか、ここを見ただけでだいたいの内容が分かるようにしましょう。
3	はじめに (調べたきっかけ)	なぜテーマに興味をもったのか、どんな疑問をもって調べ始めたのかを書きましょう。できるだけ、身近なエピソードも交えて、ていねいにたくさん書けるといいですね。
4	ほんぶん 本文1	<p>「何について調べたかや予想」</p> <p>※なぜそのような予想を立てたのかの理由も、自分の今までの体験から書けるといいですね。</p> <p>「どのような方法で調べたか」を書きます。</p> <p>※実験や観察、見学など様子を伝えたいときは、図や絵、写真もそえましょう。</p>
5	ほんぶん 本文2	<p>「調べて何が分かったか」を書きます。</p> <p>※グラフや図、絵、写真など目で見てよく分かり、アピールするようにします。出典を忘れずに！</p> <p>大事なところは文字の色や大きさを変えるとよく伝わります。</p> <p>「(予想と比べたりして) 考えたこと」を書きます。</p> <p>※資料や情報をもとにして、自分の考えを文章に書いて伝えましょう。</p>
6	まとめ	「調べて楽しかったこと、大変だったこと、思ったこと、感じたこと」を書きます。
7	さんこうしりょう 参考資料リスト	調べるときに使った本、Webサイト、新聞、人、場所などについて題名や名前を書きます。

ほごしゃ
保護者の方へ

～調べる学習コンクールの応募形式について～
おうほけいしき

- 1 サイズ
小学生 B4 サイズまで（八つ切りサイズも可、A4 の可）
中学生 A4 サイズまで
※模造紙等にまとめる場合は、上記サイズに折りたたむこと
もぞうし じょうき
- 2 ページ数
本文 50 ページ以内
表紙・目次・参考文献リストは含まない
さんこうぶんげん ぶく
※パソコンで入力する場合は 11 ポイント以上、
1 ページの文字数は 1,000 文字を目安とする。
- 3 必ず書くこと
調べたときに利用した資料名（出典）と図書館名

じょうほう
情報カード見本（本を使うとき）

じょうほうカード

☆ だいじなことをえらんでかきうつそう

しらべたこと

書名（本のなまえ）	書いた人	しゅっぱんしゃ 出版社

じょうほう
情報カード見本（インターネットを使うとき）

じょうほうカード ☆ だいじなことをえらんでかきうつそう

しらべたこと しらべた日 月 日

<small>うえぶ</small> Webページ名	<small>うえぶ</small> Webサイト名	作った人・ <small>だんだい</small> 団体
<small>ゆーあーるえる</small> URL	<small>こうしんねんがっぴ</small> 更新年月日	